

2011年度

科目名	実務前実習				
担当教員	小川 雅史、小西 廣己、名徳 倫明、上島 秀樹、初田 泰敏、 廣谷 芳彦、西井 諭司				
配当	薬科4			コード	13081
開期	後期	講時	月曜日3限 月曜日4限 月曜日5限 火曜日3限 火曜日4限 火曜日5限	木曜日3限 木曜日4限 木曜日5限 金曜日3限 金曜日4限 金曜日5限	単位数 4
授業テーマ	【必修】病院や薬局での薬剤師職務に必要な基本的な知識・技能・態度を修得する。				
目的と概要	実務実習を行うための基本的な知識、技能や態度の修得				
成績評価法	実務前実習は実習態度25点、実習試験10点、レポート15点、期末試験(共用試験)50点として評価する。				
テキスト	薬剤師手技の理論と実践/高田充隆他編/京都廣川書店 6年制対応教科書「調剤学」/柴田敏之編/廣川書店 第12改定「調剤指針」/日本薬剤師会編/薬事日報社				
参考書	薬学生のための実務実習事前学習テキスト実技編/じほう スタンダード薬学シリーズ10「実務実習事前学習」/日本薬学会編/東京化学同人				
履修に当たっての 注意・助言/準備 学習	実務実習に向けて知識、態度と技能を修得するための実習です。したがって、実務前実習時は医療人に求められる態度で参加して下さい。				
講義計画					
補助教員:川西 園代、池田 賢二、伊賀 幾美					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コア対応番号	学習領域
1-2	講義・演習	処方せんの基礎と 不適切な処方せん	1. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。	D I (2)	知識
			2. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。	D I (2)	知識
			3. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。	D I (2)	技能
			4. 不適切な処方せんの処置について説明でき	D I (2)	知識
			5. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。	D I (3)	知識
3-4	講義・演習	患者の特性・病態と 用法用量	1. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。	D I (2)	知識
			2. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。	D I (2)	知識
			3. 患者の特性に適した用量を計算できる。	D I (2)	技能
			4. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。	D I (2)	知識
5	講義・演習	医薬品の剤形と患者情報	1. 患者に適した剤形を選択できる。	D I (2)	知識・技能
			2. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。	D I (6)	知識
			3. 患者背景、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。	D I (6)	技能
			4. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。	D I (6)	知識
			5. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。	D I (6)	知識
6-7	実習	注射剤の配合変化と 静脈経腸栄養	1. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。	D I (4)	知識
			2. 代表的な配合変化を検出できる。	D I (4)	技能
			3. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。	D I (4)	知識
			4. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。	D I (4)	技能
8-10	講義・実習	特別な配慮を要する 医薬品	1. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。	D I (4)	知識・技能
			2. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。	D I (4)	知識
			3. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。	D I (4)	知識・技能

			4. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。	D I (4)	知識・技能
			5. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。	D I (4)	知識・技能
			6. 生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。	D I (4)	知識・技能
			7. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。	D I (4)	知識・技能
			8. 放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。	D I (4)	知識・技能
			9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。	D I (4)	技能
11-12	演習	副作用の初期症状と検査所見及びリスク回避と対処(1)	1. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。	D I (5)	知識
			2. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。	D I (5)	知識
			3. リスクを回避するための具体策を提案する。	D I (5)	態度
			4. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。	D I (5)	態度
13-14	講義・演習	副作用とリスクマネジメント及びリスク回避と対処(2)	1. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。	D I (3)	知識
			2. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。	D I (6)	知識
			3. 患者背景、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。	D I (6)	技能
			4. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。	D I (6)	知識
			5. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。	D I (6)	知識
			6. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。	D I (5)	知識
			7. リスクを回避するための具体策を提案する。	D I (5)	態度
			8. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。	D I (5)	態度
15-17	講義・演習	小括	1. 実務前実習前半内容の基礎知識を修得している。	独自	知識
18-22	実習・演習	計数調剤、計量調剤(散剤、水剤、軟膏)、鑑査・疑義照会	1. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。	D I (2)	技能
			2. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。	D I (2)	技能
			3. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。	D I (2)	技能
			4. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。	D I (2)	技能
			5. 代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。	D I (3)	知識
			6. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。	D I (3)	技能
			7. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。	D I (3)	知識
			8. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。	D I (3)	知識
			9. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。	D I (3)	知識
			10. 疑義照会をシミュレートする。	D I (3)	技能・態度
23	実習	総合実習(調剤)	1. 代表的な処方せん例の鑑査を行うことができ	D I (7)	技能
			2. 疑義照会をシミュレートする。	D I (7)	技能・態度
			3. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。	D I (7)	技能
			4. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。	D I (7)	技能
			5. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。	D I (7)	技能
24-28	実習・演習	疑義照会、院内製剤、無菌操作、注射剤調製(高カロリー輸液、抗悪性腫瘍剤)	1. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。	D I (3)	知識
			2. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。	D I (3)	知識
			3. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。	D I (3)	知識
			4. 疑義照会をシミュレートする。	D I (3)	技能・態度

			5. 代表的な院内製剤を調製できる。	D I (4)	技能
			6. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。	D I (4)	知識・技能
			7. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。	D I (4)	技能
29-30	演習	服薬指導	1. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。	D I (6)	知識・技能
			2. 共感的態度で患者インタビューを行う。	D I (6)	技能・態度
			3. 患者背景を配慮した服薬指導ができる。	D I (6)	技能
			4. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。	D I (6)	技能
31	実習	総合実習(調剤、服薬指導)	1. 代表的な処方せん例の鑑査を行うことができる。	D I (7)	技能
			2. 疑義照会をシミュレートする。	D I (7)	技能・態度
			3. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。	D I (7)	技能
			4. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。	D I (7)	技能
			5. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。	D I (7)	技能
			6. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。	D I (7)	技能
32	実習	総合実習	1. 代表的な処方せん例の鑑査を行うことができる。	D I (7)	技能
			2. 疑義照会をシミュレートする。	D I (7)	技能・態度
			3. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。	D I (7)	技能
			4. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。	D I (7)	技能
			5. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。	D I (7)	技能
			6. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。	D I (7)	技能
33-35	講義・演習	総括	1. 実務前実習の基礎知識を修得している。	独自	知識

授業方法

一般目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
D I (2、3、4、5、6)、独自	講義・演習	講義室	3	プリント、スライド、処方せん等	90分×34
D I (2、4、6)	講義・演習・実習	実習室	6	プリント、スライド、実薬、器具等	90分×9
D I (5)	演習	小教室	9	プリント	90分×6
D I (2、3、4、7)	演習・実習	講義室・模擬薬局	9	プリント、スライド、処方せん、実薬等	90分×33
D I (6、7)	演習・実習	講義室・模擬薬局	9(4)	プリント、処方せん、実薬等	90分×16